

技能伝承に取り組む企業の好事例発表及び意見交換会

山口県地域技能振興コーナーでは、技能伝承の好事例を企業に普及させ、企業における技能伝承の重要性に対する理解を深めていただくために、「技能伝承に取り組む企業の好事例発表及び意見交換会」を開催しました。

- 開催日時 平成29年2月22日（水）14：00～16：00
- 開催場所 翠山荘（山口県山口市湯田温泉3丁目1-1）
- 参加者 事例発表者1名、パネリスト4名、企業からの参加者23名
- 事例発表 荒川 有三 氏（荒川製畳所）
- 意見交換
パネリスト 荒川 有三 氏（荒川製畳所）
石田 昭典 氏（(有)インダ）
新谷 敏男 氏（新谷畳店）
長谷 寛宣 氏（長谷畳店）
花形 正和 氏（花形畳店）
コーディネーター 馬庭 龍二 氏（マニワ・コンサルタント）

【事例発表】

「手縫い畳床の製作について」をテーマに現代の名工でもある荒川有三氏が畳床の歴史を知ることが技能向上の第一歩であること、手縫い床の構造の変化が縫い方の進化に繋がっていることを映像を使いながら話された。

【意見交換】

各パネリストから

- ・歴史の勉強をすること。
- ・仕事の心構えを定めており、毎朝社員で唱和して仕事にかかる。
- ・作業の理屈がわかること。常に疑問を持つこと。
- ・機械の時代でも基礎が大切、検定等を利用して基礎を鍛えること。
- ・寸法などは昔ながらの方法を大切にしたい。
- ・技能士会で技能向上研修会を毎年開いている。手縫い床は継承していかなくてはならない技術である。
等の意見が出された。

【出席者からの質問】

◇辛かったこと、よかったことは何か。

- ・仕事中はしんどいが、終われば達成感を感じる。なかなかこれでよいということはない。満足したことはわずかしかない。
現物を見たことがない畳の依頼があった。完成させたが、反省する箇所がたくさんあった。
技能グランプリにチャレンジしたことで、自分の弱点を見つけることができ、目標も見つかった。ハンデをプラスに換えることが大切である。

◇基礎はどのようにして教えるのがよいか。

- ・基礎はしつこいくらい教える。できるまでやる、練習しかない。

【まとめ】

技術、技能とは新しいものがずっと連なって作られていくものである。昔のこともきちんと習得していくことが大切であり、基礎をしっかりと身につけていくことが、伝承していくということに繋がる。



【事例発表】



【パネリストの皆さん】



【意見交換会 パネリスト及び司会】



【意見交換会】



【会場風景】